

をしたいねん。もっと作業工賃が欲しいねん』という意見があがりました。このニーズが他の利用者も同じく持っているのか、試行的に昨年度より、土曜日に作業を目的とした開所日を実施しました。事業開始当初より余暇の充実をはかる目的で第4日曜日を開所日としてパン作りサークル・軽スポーツサークルを実施していましたが、この日曜開所日に加え、土曜日にも作業の為に通所してくれるのだろうかとの思いでした。しかし実際は年8回土曜作業開所を実施し、平均で15～16名の利用者が参加しました。この結果をニーズ有と判断し、年度末の面談時にすべての方に土曜作業開所日のお誘いをしたところ今年度は24名の参加者が集まりました。4月7日に第1回を終え、今年度は年10回の開催を予定しています。月1回平日の外出行事と第4日曜日のパン作りサークル・軽スポーツサークルの余暇活動、そして日課の作業と土曜日に行われる作業開所日。港第二育成園のモットーである“よく働き、そしてよく遊ぶ！”をさらに充実させ、楽しい一日を過ごせる場所であるように今年度も職員一同努力してまいりますので、どうぞこれからもご指導・ご鞭撻を賜わりますよう宜しくお願い致します。

「働き続けたい」を支えるために

ワークスいけじま
管理者 杉原 浩司

ワークスいけじま管理者の杉原です。早いもので私がワークスいけじまに戻って一年が経ちました。以前にもワークスいけじまで勤務した経験がありますが、利用者と彼らを巡る環境が大きく変わっている事を痛感した一年でした。



現在、利用者の平均年齢は52歳で年々上がっています。ただ利用者の作業に対するモチベーションは高く、皆さんやりがいを感じておられます。今後は利用者がオーバーペースにならないように心がけ、やりがいを持って働き続けられるよう支援していきたいと思っています。

高齢化に伴い、持病のある方も増えてきました。血圧測定など日々の健康管理は勿論、医療機関をはじめ、通院同行される訪問介護事業者やグループホームなどの関係機関とも連携して支援していく必要性を強く感じています。

また、利用者が高齢になられるということをご家族

など本人を支えておられる方が高齢になられるということでもあります。実際に一人暮らしをされる方、グループホームなどに入所される方も増えてきています。ワークスいけじまは就労継続支援B型で、あくまで通所の事業所ですが、一番身近に利用者として接している支援機関として、地域で生活を支える関係機関と連携して支援していきたいと考えています。

「利用者がいつまでも生き生きと働きながら、地域で普通に暮らしていける」そんな支援をスタッフ一同目指したいと思っています。よろしくお願ひいたします。

安心安全を第一に楽しく思い出に残るサービスを

居宅介護事業所
管理者 黒岩 剛史

今年度も継続して「指定居宅介護事業所 大阪市手をつなぐ育成会」の管理者を拝命し、4年目になりました管理者の黒岩剛史です。引き続きよろしくお願いいたします。また、事務所も西区から港区に移転して3年目を迎えました。少しずつですが、行動援護の利用者、資格を持ったヘルパーも増え、行動援護の事業も充実してまいりました。引き続き、移動支援、居宅介護、重度訪問介護とともに利用者へのご希望に応じていけるように頑張っていきたいと思ひます。



当事業所は余暇の支援(移動支援)のニーズが多くあります。私はこの余暇の支援に携わると、改めていい仕事を経験させてもらって幸せだなと感じます。あるTV番組でアメリカの教授が「人が幸せを感じる時はどんなときか」を研究し、講義されていました。人はそれぞれ幸せな瞬間は違うが大きく分けると3つの時が幸せを強く感じている、との事でした。①人と交流している時。②ある人の事に興味を傾けている時。③今をしっかり感じている時。というものでした。②は例えば、自分の好きなタレント(家族?)に何をプレゼントしようか、と考えているような時でしょう。③は未来の事に心配し過ぎたり、過去にとらわれないで、今だけをじっくり味わっている時のことでしょう。そうだとすれば、この余暇の支援は本当に①②③の時が全部入っている事になります。そんな幸せな仕事を今年度も大事に努めてまいりたいと思ひます。

当法人では昨年度にホームページがリニューアルさ